

# いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

## 「生命誕生」

魚津市立上野方小学校児童  
平成21年10月28日実施

## 【いのちの先生】

水井 雅子先生  
・助産師

### 【授業の概要】

- 1 養護教諭の話（「いのちの先生」の紹介）
- 2 いのちの先生の話
  - (1) 周囲の人々の愛情
  - (2) 胎児の発達と生命誕生
  - (3) 自他の生命尊重

赤ちゃんが産まれてくるときの紙芝居を見ていると、産まれてくる赤ちゃんがとても大事にされていて、わたしも大事にされていたのだなと思いました。お母さんのお腹の中にいたことは知っていたけど、産まれるまで安全に気をつけていてくれたことが、水井先生の話聞いてとてもよく分かりました。

わたしのいのちも友だちのいのちも始めは針の穴ぐらいの大きさだったんだと知ってびっくりしました。また、赤ちゃんの人形がとても重くて、お母さんはこんなに重いものをお腹に入れておくのかと思いました。

いのちは、私が今まで思っていたよりも大事だということが分かりました。



お母さんが自分を一生懸命産んでくれたことがよく分かりました。家族の紙芝居を見て、家族のつながり、いのちのつながりがよく分かりました。お腹の中で死んでしまう赤ちゃんがいることも知り、お母さんはわたしのためにがんばってくれたんだと思い、うれしくなりました。

へそのおはいのちのパイプというくらいとても大事なんだと思いました。ただ、お腹の中の赤ちゃんが運動みたいことをしすぎてへそのおが首をしめて、赤ちゃんがお腹の中でなくなってしまうことがあるなんて、考えたこともなかったので驚きました。

いのちの授業を受けて男も女も生まれる前はみんな女だったと初めて知りました。赤ちゃんのときはみんな顔が同じなのに、そのあとみんな違ってくるのは不思議だと思いました。

赤ちゃんはとてもかわいいけれど生まれるまではとても大変だということがよく分かりました。